# 世界初の HDR スクリーン
# レイロドールが 2017 年度
# HiVi グランプリを獲得いたしました。

# レイロドール REIRODORU

OS NEWS
編集・発行：株式会社オーエス マーケティング課
2018 年 2 月 15 日発行
NO.14

お客様へのお役立ち情報、トピック等をお知らせする情報誌をお届けいたします。OSnews のバックナンバーはオーエス Web サイトでご覧いただけます。

## HiVi グランプリは、株式会社ステレオサウンドがその年をけん引した優秀な AV 製品に与える権威ある賞。2017年度、ホームシアター用 HDR 適合スクリーン「レイロドール」はペリフェラル部門で、受賞しました。

写真提供：株式会社ステレオサウンド

左から：柿沼 HiVi 編集長、選考委員長麻倉先生、選考委員山本先生、選考委員小原先生、選考委員藤原先生、選考委員高津先生、選考委員潮先生、

麻倉選考委員長と OSM 栗山

VGP 2018 技術大賞

レイロドールは、その開発コンセプトなどが評価され、株式会社音元出版のビジュアルグランプリ技術大賞も受賞しています。

HiVi 2017 Grand Prix ペリフェラル部門

HiVi グランプリとは：株式会社ステレオサウンド主催。1986年に創設され、今回で 33 回を数えるアワードです。業界を牽引する大きな意味を持ちます。

## ピュアマットはオーエスのスクリーン技術の歴史です。

ピュアマットは、誕生以来その製品の完成に甘んじることなく毎年のように進化を繰り返し、新製品が出る度に共感をいただき受賞をしています。海外でも大きな評価を得ているピュアマットの開発の取り組みは、オーエスのスクリーン開発そのものです。

**2000 年：ピュアマット（WF101）誕生**
世界初のランダムな織目を持つファブリックスクリーン。

**2002 年：ピュアマットⅡ（WF201）発売**
初の実用化。フロアスタンド型もラインナップ。

**2004 年：ピュアマットⅡPlus（WF202）発売**
黒を締めるブラックバックコーティングを採用。

**2010 年：ピュアマットⅡEX 誕生（WF203）発売**
フル HD 対応の幕面を開発。

**2013 年：ピュアマットⅢ発売（WF301）発売**
糸の太さを 1/2 に細くして織目を 1/4 にした 4K 対応。張込み専用。

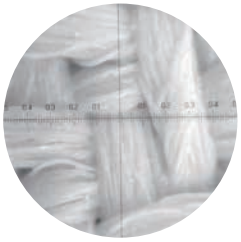
**2014 年：ピュアマットⅢCinema（WF302）発売**
巻取りを可能にした 4 K 対応ピュアマット。

**2017 年：レイロドール（HF102）発売**
世界初の 4 K HDR 適合スクリーン。広階調型の生地特性を確立。

**2018 年：ピュアマット 204（WF204）発売**
復活リニューアルしたフル HD 対応ピュアマット。

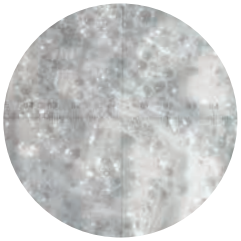
**WF202**
2002 年
グランプリ

**WF203**
2010 年
グランプリ



**WF301**
2013 年
グランプリ

**HF102**
2017 年
グランプリ
HiVi 2017 Grand Prix ペリフェラル部門



## オーエスは 20 種類以上のスクリーンを販売しています。

オーエスのスクリーン生地は現在 20 種を越える種類を販売しています。巻取りスクリーンをはじめ、マグネット専用生地や、エアー立ち上げ式、透過型、短焦点用など用途に応じた最もふさわしい生地を、常に開発しています。ピュアマットは今後業務用途への拡大に取り組みます。これからもオーエスのスクリーン技術にご期待ください。

**ピュアマット / レイロドール「開発秘話」をホームページでぜひ覧ください。**
https://jp.os-worldwide.com/os_plus_e/products/story/reirodoru/

**スクリーンのものづくりの思想は、オーエスの各製品に生かされ、長期にわたる歴史に裏打ちされています。**

以下はその一例です。

## ・ディスプレイハンガー

1976 年ディスプレイハンガーの歴史は「テレビハンガー」から始まります。以来モニターの進化とともに改良を重ねています。

| 1976 年 | 1980 年 | 1981 年 | 1990 年 | 1994 年 | 2004 年 | 2005 年 | 2009 年 | 2018 年 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| テレビハンガー | OTP | OHT | TH-S･M･L | TH-42･56･70･84 | TH200 | TH300,400 | DH-300,460 | HDC |

ハンガーシリーズとして・プロジェクターハンガー
・スピーカーハンガー
・カメラハンガー
を近日中に販売を予定いたしております。

## ・キャビネット

AV キャビネットの取り組みは CRT 用の AV テーブルから始まりました。CRT から薄型 DP に置き換わるに従い、次第にテレビ台としての機能よりも、操作卓としての機能の充実にシフトしてきています。

| 1981 年 | 1992 年 | 1994 年 | 1995 年 | 2002 年 | 2005 年 | 2008 年 | 2018 年 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| MS/MW | ニュー AV テーブル | MW-C/1000 | TT/TR/TB | UT-20 | UT-34 | UC | CL |

2018 年、演台・レクチャー卓に続き、
AVキャビネットのシリーズとして
シングル･ツインキャビネットの発売
を予定しています。ご期待ください。

## 乾坤一擲

014

代表
奥村 正之

株式会社オーエスは二〇一四年に創立六十周年を迎え、今新しい歴史を刻もうとしています。代表 奥村正之が歩みを振り返ります。「けんこんいってき」で 何が語られるか お楽しみください。

ものづくりにはたいへん長い工程があることも知り、次に「横持ち（よこもち）」という言葉を学びました。

当社の製品を完成させる工程は、大半を当社工場内で行うのですが、部品の加工については、協力企業（工場）にお願いしていることもあります。

この協力企業もそれぞれに役割があり、保有している加工機によって生産能力が違います。

簡単に言うと出来ることに違いがあります。

たとえば、ある製品を生産する上で、当社が手配したX原材料メーカーから原材料をA協力企業に入れていただき、そこでシャーリングやプレス加工などの工程を経て、次のB協力企業で溶接工程を経て、C協力企業で塗装仕上げをした後に当工場に納入される。

XメーカーからA協力企業、B協力企業、C協力企業の工程を経て部品や半製品が納入される。

もちろんコントロールはすべて当社が行うのですが、このような協力企業の工程を経た部品や半製品がそれぞれに組み合わさって出来ていくことを、横持ちといいます。

何万点もある部品をコントロールして、納期、数量、品質、仕入価格を調整しながら、ものづくりの工程管理を進めていく。

一方、その際にこのような協力企業に当社の保有する金型なども預けていて、加工の際にそれらの金型を使用して部品の加工を行います。

これらの金型は生産数が増えていくと磨耗していきます。

また金型にもそれぞれ特有の顔があり、同じような金型で作っても出来上がる部品が異なり、当社の金型で作ったものと同じような金型で作ったものの見分けが出来ることも知りました。

以上のような複雑な仕組みのもと、更にお客様のご要望にお答えできるように細かな調整を行っていく。

これら一連の業務は、とてもたいへんな作業で、私の今までの経験では商品を仕入れて販売するだけの簡単な仕組みだったので、全く違う世界があるということに驚き、またすごいなあ、と思いました。

当社の製品はこのような横持ちを経て、当社工場内で最終製品に仕上げて、最終検査をクリアしたもののみお客様へお届けしております。（続く）

記載内容に関するお問い合わせは、弊社担当者あるいはコンタクトセンターまでお願いいたします。

株式会社オーエス
コンタクトセンター：
TEL.0120-380-495 FAX.0120-380-496 ホームページ：https://jp.os-worldwide.com

※OSnews のバックナンバーはホームページからご覧いただけます。